

宝石学会（日本）ニュースレター

第 28 号 2023 年 4 月

2023 年一般講演会・総会のご案内

糸魚川での開催の準備は次のように進んでいます
が、皆様のご参加とともに一般講演申込みぜひ願
います。

糸魚川市より後援していただけることになり、見学
用バスの提供などの支援があります。

【講演会・総会】

日時：6 月 10 日（土）9:30～18:00（予定）

会場：フォッサマグナミュージアム

特別講演：

「人工知能による深層学習を利用したヒスイ判別機
の開発（仮題）」小原孝彦氏（フォッサマグナミ
ュージアム）

【懇親会】

会場：割烹「倉また」

日時：6 月 10 日（土）18:30～20:30（予定）

【見学会（予定）】

日時：6 月 11 日（日）8:00～15:00

晴天の場合：フォッサマグナパーク、小滝川ヒスイ峡、
須沢海岸、コスモクロア輝石産地、等

雨天の場合：長者ヶ原遺跡、ヒスイ工房、谷村美術館・
玉翠園、須沢海岸、等

【一般講演申込案内】

一般講演の発表を希望される方は、宝石学会（日本）ホ
ームページ (<http://www.gakkai.ac/gsj/>) から「宝
石学会（日本）年会一般講演申込み書式」のテンプレ
ートを当会ホームページよりダウンロードし、案内に
従って作成をお願いします。なお、プログラムに掲載
するため B5 版で作成してください。

提出は 5 月 8 日（月）までに電子メールで庶務担当幹
事江森 (emori@cgl.co.jp) までお送りください。

尚、当学会では毎年の学会発表要旨を電子化し、独立
行政法人科学技術振興機構（JST）が構築した「科学技
術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）」のホーム
ページ上で公開しております。要旨を提出される際には
必ず英文のタイトルと抄訳をご記入ください。

【参加申込案内】

参加申込書を郵送しました。事務処理の簡略化のため
に、ぜひとも事前申込と参加費の事前振込をお願いし
ます。当日払いの参加費等は 1,000 円高くなります。

申込期限：5 月 31 日（水）

参加費：4 千円

懇親会費：5 千円

見学会費：2 千円

今回は、会場付近に昼食をとる場所がないため、学
会が手配することにします。参加費には昼食代とミュ
ージアム入館料等が含まれています。事前振込の際は、
年会費（6,000 円）も合わせてお願いします。

ランチタイム講演会報告

日時：2 月 15 日（水）12:00～13:00

講演者：竹之内 耕氏（フォッサマグナミュージアム館長）

タイトル：『石のまち、糸魚川でヒスイをめぐる』

参加者：27 名

講演では、フォッサマグナミュージアムを含め、ユ
ネスコ世界ジオパークのまち糸魚川についてとても
分かりやすい紹介があり、6 月に糸魚川に行くことが
とても楽しみになりました。

最初に糸魚川付近の航空写真で糸魚川の位置関係
が示されました。糸魚川の街は、後ろに高い山、前
には日本海で挟まれた狭い平地にあり、そこを山から川
が流れていました。この川のところを糸魚川—静岡構
造線という断層が走っており、この断層の露頭を「フ
ォッサマグナパーク」というところで見ることができ
るそうです。

フォッサマグナは日本列島の大きな割れ目である、
と学校の授業で習った記憶があります。私は、これを
糸魚川—静岡構造線と同じものと長い間勘違いして
いました。実際は、フォッサマグナという割れ目は幅
が広く（幅～100km?）、糸魚川を通る構造線はフォ
ッサマグナの西側の境界線とのことです。この境界線を
またいで酒造会社があり、酒造りに必要な水を断層の
西側から汲んでいるとのこと。この話は昨年、NHK 番
組「ブラタモリ」でも紹介されていました。

私にとって糸魚川といえばヒスイですが、海岸で採
取できるそうなのでぜひ見つけてみたいです。ヒスイ

の特徴は、①滑らかな表面、②光線できらりと光る、③重量感がある、ということのようですが、見つけることはそう簡単ではないとか。しかし、ヒスイがみつからなくても糸魚川では 30 種類もの岩石をみることでできるようで、この石を使った「石のかおコンテスト」が行われており、石のカード（20 種、各 100 円）も販売されていると聞きました。

糸魚川は世界最古級のヒスイ文化発祥の地として知られていますが、国内でヒスイが見つかっているところは 10 カ所あるそうです。鉱物学的にも興味がありますが、ヒスイの産地による違いについては、当宝石学会誌 vol.32(2016 年)に詳しい記載があります。
(神田久生)

宝石学会ロゴの作成

現在、J-STAGE Data(ニュースレター 27 号参照)の利用を準備しているところですが、これを運用している JST から、J-STAGE Data に載せるために学会ロゴがあるとよいと言われました。そのため、学会ロゴを作ることにはしたいと思います。

つきましては、次のような手順で作りたいと思います。

1. 会員から原案を募集する。
2. 幹事会で優れた原案を数点選択する。
3. 選択された原案を、デザイン会社に依頼してブラッシュアップし、候補作品を数点決める。
4. 候補作品から、会員の選挙によりロゴを決定する。
5. 決まったロゴは、当学会の所属とするが、ロゴ原案を提案した会員には賞状と副賞を授与する。

(幹事会)

名簿の改訂

当宝石学会会員名簿は昨年 2 月から発行をはじめ、7 月に改訂版を会員の方々に送付しました。

年度も変わったので、この度、改訂したいと思います。掲載内容を変更したい方は事務局までお知らせください。連絡がなければ、そのまま掲載させていただきます。
(幹事会)

50 周年行事

当宝石学会は 1974 年に設立され、来年 2024 年で 50 年になります。そこで幹事会では 50 周年記念行事を検討したいと考えています。会員の皆様のご提案をお願いします。
(幹事会)

オンラインイベント

新型コロナウイルス感染の流行も沈静化してきたようです。この期間、対面の交流が難しくなった代わりに、オンラインでの交流が定着してきましたが、当学会でも zoom を使って会合を行ってきました。

その一つにランチタイム講演会があり、昼休みの間に気楽に聴講できる講演として、今まで 14 回実施してきました。しかし、このところ、ネタ切れになって開催頻度が下がってきましたが、引き続き実施していきたいです。講演者や講演テーマのご提案をお願いします。

ここで別の提案ですが、ランチタイム講演会のほかに、夜間の談話会をオンラインで開くことを考えています。懇親会や二次会のような調子で、会員間の情報交換や意見交換を行うもので、疑問に思っていること、聞いてみたいこと、よくわからないこと、最近聞いた話などを出し合い、それについて話し合う機会になればよいかと思います。具体的には 6 月の総会・懇親会のときにでも相談させていただきます。(神田久生)

イベント情報

「東京大学総合研究博物館で『若林鉱物標本』公開

わが国では『和田標本』(三菱マテリアル)・『高標本』(九州大学)・『比企標本』(京都大学)等と共に有名な『若林標本』が、次のとおり公開されている。標本は、木製ケースのものをそのまま覗けるようになっていたり、床下にも配置されていたり、展示に工夫を凝らしている。有名な三角黄銅鉱や荒川石(ベゼリ石)も見事であるが、1904(明治 37)年、米国のセントルイス万国博覧会に出展され、世界最大級の金鉱石(重さ 2.25kg、含有率 83%)として話題となった宮城県鹿折金山の自然金も立派である。今回の展示場所ではなく、入口付近にある、市の川鉱山の輝安鉱(黒く変質している)も忘れずに見て欲しい標本である。

・名称: 特別展示「東京大学・若林鉱物標本～日本の鉱山黄金時代の投影～」

・会期: 令和 5 年 3 月 23 日～9 月 1 日

・開館時間: 10 時～17 時(入館は 16 時 30 分まで)

・入場料: 無料

・会場: 東京大学総合研究博物館(東京都文京区本郷 7-3-1)

・備考: 休館日はホームページ(<http://www.um.u-tokyo.ac.jp>)をご覧ください。
(林 政彦)

本ニュースレターの著作権は本学会が所有しますが、著名入り記事の執筆責任はそれぞれの著者にあります。

宝石学会(日本) ニュースレター(第 28 号)

2023 年 4 月 発行

編集: 神田久生、渥美郁男、江森健太郎、北脇裕士、高橋泰、林政彦、古屋正貴、矢崎純子、山本亮

発行: 宝石学会(日本)

東京都台東区上野 3-20-8 小島ビル 6 階